

会 長 方 針

2005～2006年度 クラブテーマ

子どもたちに夢と希望を、街にときめきと共感を



会 長 松 浦 敏 之
幹 事 井 山 光 一

東京立川こぶしロータリークラブ創立20周年の意義深い年に、会長としてご信任いただきましたことを皆様に感謝申し上げます。与えられた重責を真摯に受け止め、決意を新たに一生懸命努力してまいる所存です。

本年度RI会長 カール・ヴィルヘルム・ステンハマー氏は「超我の奉仕」というテーマを掲げられました。ロータリアンにとって馴染み深いこの言葉を掲げた意義を一年間かみしめていきたいと思えます。さらに「これまでに絶大な成果を上げてきた人類の基本的ニーズを表す諸分野に焦点を当てたい」とも言われ、「識字率の向上」や「水保全」などを注目すべき大きな課題として触れています。私はこれらのメッセージは、「各々のクラブにおいて、ロータリーの原点に返り、それぞれの地域に見合った奉仕を行う」ということを示唆していると受け止めたいと思えます。

そこでわがクラブに目を向け、創設以来20年にわたる輝かしい発展に想いを馳せる時、文字通り「超我の奉仕」でこの成長を支えて下さった諸先輩の足跡を忘れることができません。また同時に、我が子の成人式を祝う両親のように見守って下さる、地域内外の関係者の皆様への大いなる感謝の念を禁じ得ません。それらを念頭に置きながら、ここに2005～2006年度の諸事行の原点となる考えを、巻頭のスローガンとして掲げます。

そして次のようなことを重点テーマとし、1年を実りあるものとしたいと考えます。

①子どもたちは、いつかあの時の自分

次の時代、次の次の時代を担う子どもたちこそ社会の宝です。私たち大人が彼らに目を向け、耳を澄ませ、心を開き、未来の私たちが夢と希望に燃え、感動に満ち溢れた素晴らしい人生に巡り会えるような「出会い」や「きっかけ」を作り出したいと考えています。

②ロータリーの地域への浸透

各事業を通じて広報活動を行い、地域内でのロータリーに対する理解を促進するように努めたいと思えます。

③会員の親睦

全会員の参加に依る20周年事業を行いつつ、会員間の友情と信頼を深めていきたいと思えます。

『子どもを叱るな 来た道じゃ 年寄り笑うな 行く道じゃ』の言葉に表されている優しさを、一年間、意識し、会長としての職務を全うしたいと思えます。